



UIFA ニュース

発行 宇治市国際親善協会

事務局 〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書広報課内
電話 0774-22-3141 (内線2058) FAX 20-8776
Eメール hishokohoka@city.uji-kyoto.jp ホームページ <http://uifa.news.coocan.jp>

第 84 号
平成31年(2019年)3月

宇治市では、平成8年度から毎年、友好都市カナダ・カムループス市にあるトンプソン・リバーズ大学へ市民留学生を送り出しています。これまで71名の方が市民留学生として、学び、多くの市民の方々と友好を深めてくれました。今年の5月から8月まで留学された吉村湧喜さんと山田祥子さんに留学体験をお寄せいただきました。

第二の故郷、カムループス

カムループス市 トンプソン・リバーズ大学 平成30年度市民留学生 吉村 湧喜



実家の親から「カムループスへの留学が決まった」という連絡が来たとき私はすごく興奮したのを覚えています。中学生のころから、この制度でカムループスという地で勉強することが私の夢でした。そして、カナダ有数の大都市バンクーバーでプロペラ機に乗り換えて、カムループスに向かいました。「風にすごく揺られるこの感じ、8年前と一緒だ。」と思いながら、窓を覗くと大自然に包まれたカムループスが見えてきました。プロペラ機の窓から見た景色は永遠に忘れることはないでしょう。実は、私は8年前に宇治市の中学生訪問団としてカムループスを訪れました。8年前の訪問団で訪れたカムループスが私の人生で初めての外国でした。今回は2

回目ということで色々な思い出やイメージを膨らませながらカムループスまで移動していました。

バンクーバーから約1時間でカムループス空港に着きました。空港に着くと、トンプソン・リバーズユニバーシティのスタッフの方々に出迎えていただきました。荷物受け取りでスーツケースを受け取っていると後ろから、「Are you Yuki?」とホストマザーに聞かれ、私が「Yes, I am」と言うとホストマザーは私をハグしてきました。私はカムループスに着く前、「どのようなホストファミリーなのか。」や「自分はホストファミリーと上手くやっていけるのか。」などホストファミリーに関する不安が一番大きかったです。しかし、その不安は良い意味で裏切られました。ホストファミリーは非常に優しく、どんな時でも私を気にかけてくれ、色々な場所に連れて行ってくれました。ラフティングやキャンプなどにも一緒に行きました。また、17歳のホストブラザーがいたことが大きかったです。ホストブラザーと一緒に遊ぶことや話すことによって、学校だけではなく家に帰ってからも英語の勉強をすることができました。友達のホストに招待され家に遊びに行くこともありました。カムループスのホストファミリーは全員優しくいい人だと思います。

私の家からトンプソン・リバーズ大学までバスで20分ぐらいの距離でした。大学で本当に多くのことを学びました。英語の面に関しては、



本当に日本にいる時よりも多くの学習法に触れることができました。授業の方法なども日本と違いました。必ず先生は自分の意見を学生一人一人に聞きます。それがどのような意見であろうと先生は真摯に受け止めてくれます。グループワークなども日本の大学より多い印象でした。その際も自分の意見が必要とされ、パートナーと意見交換します。大学の授業でいかに自分の意見を持つことが重要であるか学びました。トンプソン・リバーズ大学の先生は皆素晴らしく、親切で丁寧に一つ一つ教えてくれます。



今回の留学を通して、カムループスがより大好きになりました。

人々は皆親切で気軽に話しかけてくれます。大自然に囲まれ、多くの緑に触れることができ、心が綺麗になります。時間がゆっくり過ぎ、英語学習に本当に最適な場所です。僕の第二の故郷です。

学 び

カムループス市 トンプソン・リバーズ大学 平成30年度市民留学生 山田 祥子



6年働いた会社を退職し、応募した今回の市民留学。私にとって、とても大きな決断で挑んだ留学でした。そして、カナダで過ごしたこの4ヶ月は、私の人生にとってかけがえのない時間となりました。中でも、ホームステイ先のマザーとの思い出がたくさんあります。空港で彼女が出迎えて挨拶してくれた瞬間から、「ここに来てよかった」と思いました。彼女が、太陽のような笑顔でハグしてくれたからです。

いざ学校に通い始めると、英語が全く話せないという壁にぶつかりました。先生の言うことも全く理解できず、学校の中のカフェでコーヒー1つを買うこともできず、無力さを感じました。初めの数日は落ち込んでいたのですが、話せないと何も出来ないのも、やるしかない！という気持ちに変わっていききました。人の言うことをメモしたり、目についたものを全てを、英語で覚えたり、、、時間はかかりましたが、「学ぶ」ということが段々と楽しくなっていきました。

会社に勤めてからは、人との付き合い方、物の考え方伝え方といった「学び」を自然と行っていました。このように勉強の「学び」の機会は、大学生以来でとても新鮮でした。昨日出来なかったことが出来るようになる。努力の成果が分かる。私は初めて「学ぶこと」の楽しさを知りました。毎晩、マザーと食事をしながら沢山の会話をしました。私のつたない英語を一生懸命聞いてくれるマザー。彼女とスムーズに話す事が私のモチベーションの一つになっていたように思います。

この留学生活において、勉強だけでなく、多くの事を学ぶことが出来ました。「人は一人では生きていけない。多くの人に支えられている」ということ。日本での私は、多くの人に支えられて生きているということ。を、つい忘れがちになっていました。しかし、海外に来て多くの人に助けられているということが身にしみて分かるようになりました。困っているときに手をさしのべてくれた通りすがりの人。自信を失ったときに励ましてくれた友人。私の生活を支えてくれたマザー。



日本からエールを送ってくれた友達、両親。大切な事を再確認させられた留学生活でした。そして、いつまでも学びの姿勢を忘れず、これからも新たなチャレンジをしていきたいです。

そして、カムループスという自然溢れる、人の温かさを感じられる場所で学ぶ機会を与えてくださったカムループス市、宇治市に感謝します。カムループス市が姉妹都市であることは、宇治市の誇りです。両市の友好関係がこれからも続く事を願っております。



我が家のハウスパーティ

国際親善協会会員（NPO 法人教育行政支援機構 理事長） 川野 智



我が家では、平成2年より毎年ハウスパーティ（米英では、「ホームパーティ」を「ハウスパーティ」といいます）を開催しています。きっかけは、宇治市が友好都市カナダ・カムループス市から初めて招聘した英語指導助手ディビッド・ギルドさんを招いたのが始まりです。その後、英語教育の充実に伴い、国の制度であるJETプログラムで招いた英語指導助手は現在10人体制となり、宇治市内の全小中学校で英語指導にあたってきています。国籍は、カナダ、アメリカ、オーストラリア、英国と多岐に渡っており国際色豊かな指導陣となっています。

さて、欧米では、一般的に来客への一番のもてなしは、高級なレストランもさることながら、自宅のリビングでの食事に招くことだと言われています。我が家では、その慣習にならい、遠い海外から来宇している英語指導助手を歓迎すべく、私の友人方も交えて総勢20人近くのゲストを招き、国際親善のハウスパーティを楽しんでいます。

パーティの最初には、コンピュータの大画面に映し出されるそれぞれの国の風景とともに各国の国歌を斉唱します。彼らは、母国の風景を懐かしみながらしっかりと国歌を歌ってくれます。（写真上）

パーティでは、決して豪華ではありませんが、妻の手料理を始め、様々な和風、洋風の料理が並び、飲み物もビールやワインが中心です。

このパーティで英語指導助手たちが、楽しそうに会話を交わしている様子や私の友人方と胸襟を開いて交流している様子を見ると本当にうれしくなります。

普段は、学校の先生としての仕事柄、なかなか心から打ち解ける場面までには、時間がかかりますが、このパーティでは、ほんとに何でも話をしてくれます。

世界には様々な習慣や風習があり、日本では常識と思っていることも世界では通用しないこともたくさんあります。私も多くのことを彼らから学ぶことができました。一人でも多くの市民の方々が、様々な機会を捉えて、相互の国の理解を深め、国際理解を自身の身をもって進めていただけたらと願っています。



5月18日 国際交流講演会を開催 『滞日ペルー人の日本での生活と文化交流』



エレラ・ルイスさん



田中啓司さん

講 師 エレラ・ルイスさん、田中啓司さん
日 時 平成31年(2019年)5月18日(土)
 14:00～15:20

定 員 先着 70 人 **参加費** 無 料

※宇治市国際親善協会会員以外の方もご参加いただけます。
 お誘いあわせのうえご参加ください。
 ※講演会終了後、宇治市国際親善協会総会を行います。

平成 31 年 (2019 年) 度宇治市国際親善協会総会を 5 月 18 日 (土)、宇治市生涯学習センターで開催します。総会開催前に、恒例の「国際交流講演会」を開催します。

今回はエレラ・ルイスさんと田中啓司さんに「滞日ペルー人の日本での生活と文化交流」をテーマに講演いただきます。

エレラ・ルイスさんはペルーの首都リマ市出身で、滞日 13 年になります。10 歳、5 歳、3 歳の 3 人のお子様を奥様と育てていらっしゃいます。また、LCK (文化でつながる京都) の代表も務められており、ペルーの伝統舞踊であるマリネラの京都国際大会を開催するなど活動されています。

田中啓司さんはルイスさんの活動を手伝われるなど、様々な面で協力されています。

お 2 人は秋に親善協会が主催しているスペイン語講座の講師としてもご活躍されています。

雑観雑感

日本が外国人にとって人気がある国となり宇治にも外国人がたくさん訪れています。もう外国人は珍しくありませんし、以前のように道を訊ねられたり、お薦めのレストランを聞かれることも少なくなりました。スマホを見ながら平等院参道を歩く外国人をたくさんみかけます。大好きなメイドインジャパンのお菓子、お茶、化粧品や薬も小さな携帯で、サイトをクリックするだけで、簡単に見つけられますので、外国人にとって、外国での旅は更に楽しいものになってきているはずです。

昔は電話代も高くして時間を気にしながら国際電話をしたものです。今は、ホームページや、SNS、フェイスブックやラインで、手軽な素早い交流ができるようになり、世界中にメッセージも画像も動画も無料で送れる時代です。世界は便利にグローバルになり交流の仕方も変わりました。

海外からの観光客は急に増えて日本への経済効果を生んでいるようですが、その一方、海外から学生や研究者、また仕事をするために来日するなど多種多様な外国人達です。日本で暮らしている彼らに日本語を教えたり、小学校で語学ボランティアをしたり、一緒に料理を作ったりと、生活に結び付いた交流へと形も変わってきています。お互いが人間として助けあう交流です。

これからも、外国の文化に触れて、お互いの考えを理解して、友好を育てていきたいものです。日本人も外国人も小さな交流の積み重ねで世界が平和になることを望むのは、今も変わらないと思います。(H.K)

事務局では、『わが家の国際交流』コーナーに掲載する協会会員皆様からのお便りを募集しています。旅行記や体験手記など国際交流に関する内容であればテーマは問いません。掲載をご希望の方は、郵送、Eメール、またはFAXにて協会事務局までお願いします。掲載は各号1～2人を予定しています。ただしその他の記事の関係上、記載できない場合もございます。(応募先は1面上を参照)

内容：事実にもとづいて書かれた未発表のもの
 字数：800字以内

※可能であれば写真もご提供ください。
 ※応募の際はお名前とご連絡先を忘れずに明記してください。